

## 矢ノ岡古墳

～約1600年前に築かれた古墳が語る謎～

矢ノ岡古墳は、高瀬町上勝間に所在する三豊市指定史跡です。昭和58年4月、ひのきの植林を行っている際、偶然発見されました。

古墳は鬼ヶ白山の中腹に立地し、眼下には高瀬川や勝間・比地地区の平野を一望できる、大変眺めの良い場所に造られています。

古墳は、直径約7～10mの<sup>えんぶん</sup>円墳（丸い古墳）であり、死者を埋葬した「箱式石棺」が2基見つかりました。箱式石棺とは、遺体の周りを石材で囲んだ簡易な石棺のことをいいます（写真上）。石棺内部の長さは1.61mでしたので、割と小柄な人物が埋葬されていたことが推測できます。

矢ノ岡古墳からは、人骨と「石釧」が出土しました。石釧とは当時の腕輪のことで、<sup>いしくしろ</sup>碧玉でできていました（写真下）。直径は7.2cmしかなく、大人の拳よりも小さいものですので、子どもが身に付けていたのか？と思うところですが、ともに出土した人骨は鑑定の結果、30歳前後の男性であると推測されています。では、どのようにしてこの人物は石釧を身に付けたのでしょうか？

そもそも、石釧は誰もが身に付けられるものではなく、当時の社会においては大変貴重なものでした。それは、<sup>ぜんぼうこう</sup>県内で出土している他の石釧はすべて「<sup>えんぶん</sup>前方後円墳」と呼ばれる地域の首長クラス古墳より出ていることから推測できます。では、なぜ直径10m以下の小さな円墳の、埋葬施設も簡易な箱式石棺から出てきたのでしょうか。

現在、石棺は覆屋の中で現状保存され、人骨と石釧は生涯学習課によって保管されています。謎が多い、矢ノ岡古墳。しかし、当時の貴重品である石釧が出土したことから、当時の三豊市にも大きな力を持った人物がいたことがわかります。

<生涯学習課>



▲矢ノ岡古墳 箱式石棺



▲石釧

## 今月の市民力

仁尾竜まつりに限らず、華やかな祭りの舞台裏では、何カ月も前から多くの人の手によって、祭りに向けての準備が地道に進められています。

地域の祭りは、楽しみな年中行事のひとつです。しかし、運営費やスタッフ不足等で今までどおりの祭りの開催が難しくなっているという声を聞きます。地域の特色ある祭りのあり方を、皆さんはどのようにお考えでしょうか。

